



▲ホワイエでの展示風景:近藤 浩一路「溪の音(たにのおと)」 紙本墨画 サイズ97×145cm

近藤 浩一路 (1884～1962)

山梨県南巨摩郡生まれ。東京美術学校西洋画科を卒業。文展などで油彩画を発表した後、日本画に転向した。1923年第10回再興院展で発表した「鵜飼六題」が初の水墨画と言われている。日本の風土を主題に、光と影を効果的に取り入れた独自の表現を確立した。

旧九州銀行本店を改装した十八親和アートギャラリーには、6つの展示室のほか、通路と休憩スペースを兼ねたホワイエがあります。2017年度と本年度に一部改修工事を行い、ホワイエにて大型の絵画作品の展示が可能になりました。

開催中の「ゆかりの画家たち展」では、十八親和銀行が本拠とする長崎県ゆかりの画家と、当行ゆかりの画家計12名の14点(初公開3点)を展示しています。

県ゆかりでは、昭和期の洋画壇で活躍し、来崎を重ねた鈴木信太郎をはじめ、長崎の創作版画の草分け的存在であった田川憲などがあげられます。また、銀行ゆかりでは、旧十八銀行記念体育館で個展を開催した山下充、佐世保本店、大波止支店を設計した建築家・白井晟一の義兄にあたる近藤浩一路の作品があります。

この内、ホワイエで展示してい

る近藤浩一路の「溪の音」は、木々に囲まれた清流の情景を紙に墨の濃淡で表現しています。川幅や岩によって流れを変える水の動きや質感が、豊かな墨色で丹念に描かれ、観る者を魅了します。

ホワイエは館内に残る旧金庫室の隣にあり、本作のここでの展示は2020年に続き2度目となります。昨年9月に新設した照明の効果によるものか、その展示風景にコレクションが受け継がれてきた時の流れを感じるのは少々、感傷的でしょうか。

昨年4月より開催して参りました特別記念展も本展で最後となります。十八親和アートギャラリーはこれからも地域の文化・芸術の振興に貢献すべく努めて参ります。今後とも、お引き立てのほど、よろしくお願いいたします。

(十八親和アートギャラリー学芸員 藤松綾子)

十八親和アートギャラリー

Juhachi Shinwa Art Gallery

学芸員
便り

当館で所蔵する作品を紹介します

十八親和アートギャラリー開館10周年記念 特別企画展第5弾

「ゆかりの画家たち展」、「縁起ものと現代の陶工展」
会期:1月21日(土)～3月25日(土)

「縁起ものと現代の陶工展」はご好評につき、現代陶工の作品4点を入替え会期を延長して開催中。

開館時間:10:00～16:00(入館は15:30まで)

休館日:日・月・祝日、年末年始(12/30～1/4)

※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F

鑑賞無料

TEL0956-23-4856

西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分
JR佐世保駅から徒歩約20分



十八親和
アートギャラリー